

【勝央町】

Ⅰ人Ⅰ台端末の利活用に係る計画

Ⅰ Ⅰ人Ⅰ台端末をはじめとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

Ⅰ人Ⅰ台端末を活用し、児童生徒一人ひとりの個性と協働性を育み、主体的な学び、情報活用能力の向上、時間と場所にとらわれない学習、学習意欲の向上を目指す。これらの学びを通して、勝央町の目指す「自立に向かって学び続ける勝央っ子～自分を愛し、友だちを愛し、勝央を愛する子～」の育成を目指す。

2 GIGA第Ⅰ期の総括(R3～R6)

GIGAスクール構想第Ⅰ期では、Ⅰ人Ⅰ台端末と高速ネットワーク環境の整備が着実に進められ、教育現場におけるICT化の土台が築かれた。本町では授業や家庭学習において、仲間と考えを共有する授業支援アプリやAIドリル等を利用するなど、個別最適な学習と協働的な学びを一体的かつ段階的に進めてきた。学習状況調査での授業におけるⅠ人Ⅰ台端末活用の肯定的回答は徐々に向上している。また、端末の持ち帰りについては令和6年度から小学3年生以上は毎日の持ち帰りとなっており、授業と家庭学習をつなげる環境が整ってきた。今後はⅠ人Ⅰ台端末が文房具の一つとして学校・家庭での学習により一層活用されるよう、授業改善や情報機器を扱う上でのモラル向上等の課題解決を図る。

3 Ⅰ人Ⅰ台端末の利活用方策

(Ⅰ) Ⅰ人Ⅰ台端末の更なる積極的活用

- ・教員がICTを活用した授業実践の好事例等の蓄積・情報共有を行う。そのための研修等を計画的・継続的に実施する。
- ・Ⅰ人Ⅰ台端末を日常的に持ち帰り、授業支援ソフトやAIドリル等を授業及び家庭学習で活用する。

(Ⅱ) 個別最適な学びの充実

- ・子どもたちが自ら考え判断し、目的や場面等に合わせてICTを最適に活用し、課題を発見・解決する力を育成する。
- ・児童生徒同士、また教員と児童生徒がやりとりするなど、人やものとの関わり合いによって学びを深める場面で、ICT活用を基盤とした協働的な学びの更なる充実を図る。

場 面	R6年度現況値	R8年度目標値
児童生徒が自分で調べる場面（週3回以上）	（小） 50% （中） 100%	小中ともに 100%
児童生徒が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面（週3回以上）	（小） 0% （中） 100%	小中ともに 100%
教職員と児童生徒がやり取りする場面（週3回以上）	（小） 0% （中） 100%	小中ともに 100%
児童生徒同士がやり取りする場面（週3回以上）	（小） 50% （中） 100%	小中ともに 100%
児童生徒が自分の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面（週3回以上）	（小） 100% （中） 50%	小中ともに 100%

（3） 学びの保障

- ・1人1台端末等を基盤とした学びの場の提供はもちろん、長期欠席・不登校、特別支援等、困難のある児童生徒に対する支援として、多面的・多角的に端末等のICTを活用する。

場 面	R6年度 現状	R8年度 目標値
希望する不登校児童生徒への支援	町内全校で実施可能 面談や授業配信の事例あり	100%
希望する児童生徒への端末を活用した教育相談	町内全校で実施可能 端末を活用した心の健康観察を実施	
外国人児童生徒に対する学習活動等の支援	現在は該当児童生徒の在籍無し	
障害のある児童生徒や病気療養児等、特別な支援を要する児童生徒の実態等に応じた支援	現在は該当児童生徒の在籍無し	